

ることを見抜き、虐待に遭っている場合はシェルターを提供し、育児放棄に遭っている場合は温かい食事と心のケアを与えるなど、支援と保護を同時に行っていることです。また従来はこうした子らを児童家庭支援センターや児童相談所等で保護しますが、その場合は外出の規制や外部との連絡遮断等の処遇を強いられることがあります。一方マザーズコンフォートでは、安全性が確認出来れば外出も外部との連絡も自由。まさに「現代の駆け込み寺」とも言うべき存在であり、他の施設とはその環境を異にしています。

私は80余りの団体に所属していません。ライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチミスト、千葉いのちの電話、千葉おかみさん会、アイバンク協会、ひかりの学園、かものはしプロジェクト、アムネスティ日本、肢体不自由児支援団体等々。この人脈をマザーズコンフォートの

大谷代表、田中照美理事につなげていきました。時にはライオンズの忘年会家族会で卓話を依頼し、また千葉おかみさん会では女性が多いことを狙って、活動をPRして寄付金・協賛金を募りました。すると驚いたことに、あちらこちらの法人からマザーズコンフォートの口座にどんど

ん寄付金が振り込まれるではないですか！ やはり会社としては、個人よりも法人の方が広告宣伝費や寄付金などが損益になるので応援しやすかったのです。

彼女たちの活動はとんとん拍子に進みます。21年3月27日に『毎日新聞』が一般社団法人マザーズコンフォートについて掲載。記事の見出しは「若い女性の『家出』先を／コロナ禍で虐待増加／千葉の母親支援団体避難所開設へ」というものでした。また4月6日にはNHK「クロージアップ現代＋」生理の貧困」にトーク出演。その後もNHKのニュースで2回取り上げられました。更に「千葉市女性のためのつながりサポート事業業務委託」に応募して選ばれ、約785万円の委託金を得ました。

まさに法人格が社会に訴える力を象徴するような現象です。60万円で立ち上げた法人が多くの命を救い、多くの傷害事件を未然に防ぎ、多くの母子たちをDVや育児放棄から救っています。そして大谷代表や田中理事が命を懸けてやってきた「人生を生きる証し」が、社会から評価され認められたのです。

一般社会では人々は日々の生活に追われ、社会に役立つことをしたい、

困っている人を助けたいと思っても実際にはなかなか出来ないのが現状です。また政治家たちの行動を待っているのは時間がかかりすぎて生命が危険にさらされてしまいます。それ

追憶、そして小さなドネーション

百田 勝彦（沖繩）

我が沖繩ライオンズクラブは1958

年12月18日、大阪南ライオンズクラブのスポンサーによって沖繩で最初のライオンズクラブとして産声を上げた。以来63年間、先達の努力によってたすきが引き継がれてきた。その間、沖繩が日本のライオンズの皆様から多くの援助を受けたことを忘れてはならない。

68年6月に、北海道札幌市で行われた第14回ライオンズクラブ全国大会では、沖繩におけるハンセン病の問題が取り上げられた。会員一人当たり10000円の拠出が決議され、総額7000万円が全国統一アクティブティとして「沖繩救済事業」

を、政治家には出来ない即効性を持つて実行するのが、マザーズコンフォートのような民間の組織や我々ライオンズなどの奉仕団体なのです。

（クラブ会長／19年入会／68歳）

に投じられた。

72年には沖繩の日本復帰を記念し、西日本のライオンズが合同でコザ市（現沖繩市）にあった沖繩こどもの国の中に、「ライオンズ広場・ジャブジャブ池」を寄贈、子どもたちの夢が実現された。

75年には九州のライオンズから、沖繩海洋博覧会に車いす1000台が贈られた。もちろん地元沖繩のライオンズ・メンバーも車いすを押すヘルパーとして奉仕したことを付け加えておく。

私はそんな歴史あるクラブに80年10月に入会、今年で42年目を迎える。06年度には337・D地区ガバナーとし